

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献

LINE連携モバイルシステム

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、先進国を含めた世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。その目標達成に向けて、民間企業の技術やイノベーション力を積極的に役立てていくことが強く求められています。富士通グループは、かねてより、共創を通じて持続的に社会にインパクトを与える成果を生み出す、「ヒューマンセントリック・インテリジェントソサエティ」の実現を目指して、テクノロジーを活用するとともに新たなイノベーションを創造してきました。この活動と、国際社会がSDGsの達成に向けて取り組む方向性は、一致していると認識しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs) を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。

ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。



「環境貢献ソリューション」認定制度のご紹介

富士通は、富士通グループが提供するソリューション・サービスの導入によるGHG排出量の削減効果を定量評価し、削減効果が15%を上回る商品を「環境貢献ソリューション」として認定してきました。現在もGHG排出量の削減効果を算定し毎年報告しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/sustainability-contribution-list/>

環境貢献

検索



LINE連携モバイルシステム

「LINE連携モバイルシステム」は、外来患者様のスマートフォンのLINEのトークメッセージ上で、診察状況や予約確認などの各種情報を患者様にご提供することで、快適な待合スペースを実現するソリューションです。当システムを導入することで、業務効率の改善はもちろん、患者様へのサービス向上、混雑緩和による感染症予防につながります。また、業務改善の結果として、CO₂排出量の削減にも貢献します。

「環境貢献ソリューション」の提供により、SDGsへ貢献します。

「環境貢献ソリューション」の取り組みは、目標13：気候変動へのアクション（気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。）への対応として、推進しています。富士通グループは、「環境貢献ソリューション」の提供を拡大し、SDGsに貢献します。



LINE連携モバイルシステムによる業務の効率化と環境負荷の低減

システム概要

「LINE連携モバイルシステム」は、外来患者様のスマートフォンのLINEのトークメッセージ上で、診察状況や予約確認などの各種情報を患者様にご提供することで、快適な待合スペースを実現するソリューションです。従来、診察状況を表示した表示盤の前で患者様が診察順番を待つ方式だったため、患者様が待合室から離れられず、その場に長時間待機したり、待合室が混雑し病院スタッフが患者様からの診察順番の問い合わせに追われたりするなどの問題が発生していました。

当ソリューションを導入することで、患者様を待合室でお待たせすることなく、別の場所で順番を待つ患者様のトークメッセージに、まもなく診察である旨を通知することや、患者様が入力されたメッセージに対して診察待ちの人数を自動返信することなどが可能です。

これにより、病院のサービス向上につながるだけでなく、患者様の呼び出し業務の効率化が図れます。また、待合室の混雑緩和による感染予防も期待できます。加えて、業務効率向上の結果として、CO₂排出量の削減にも貢献します。

効果

・CO₂排出量の削減効果：約33.3% ※富士通フロンテック試算

・病院スタッフの患者呼び出し、問合せ対応工数の削減

【導入前】患者呼出し、問合せ対応 約6,240時間/年（患者は診察における不明点があれば看護師/受付に問合せ）

【導入後】患者呼出し、問合せ対応 約4,160時間/年（患者は診察における不明点があれば自端末で確認）

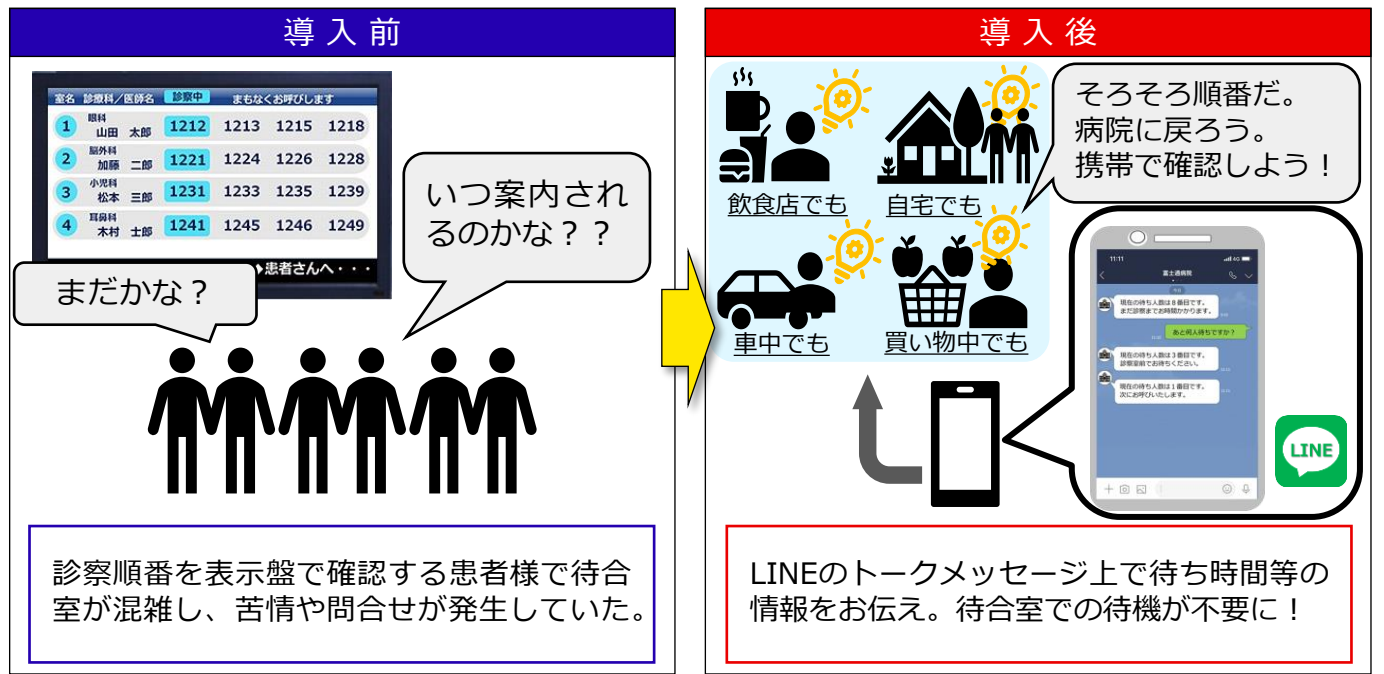
⇒結果、約2,080時間/年の削減

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、システムの特性により結果が異なることを予めご承知おきください。

LINE連携モバイルシステムの導入によって、何故、外来案内業務の負担が軽減されるのか？

トークメッセージ上で患者様に待ち時間等をお知らせすることで、

- ① 待ち時間が分からない患者様からの苦情が減ります。
- ② 患者様からの診察順番に関する問い合わせが減ります。



お問い合わせ先

富士通フロンテック株式会社

ファイナンス&リテール事業本部 第二ソリューション事業部 第二システム部

Webによるお問い合わせ： <https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/contact/products/>